

KSKQ

パラマウント通信

一般社団法人 日本障害者カヌー協会 機関紙

2018/01/02

祝☆法人化しました!☆新年号

No.73

日本障害者カヌー協会 年次総会報告



理事 齊藤典彦

いつも、日本障害者カヌー協会(以下、協会)の活動を支援していただき、ありがとうございます。今回、諸般の事情により機関紙の発行が遅くなりました。障害者カ

ヌーをとりまく動きが、ものすごく速くなっており、タイムリーな情報発信は Facebook ページ、固定的な発信は協会 Web ページでお届けしています。そのような中であつても、紙の媒体でしか情報を伝えられない方々が、まだまだ多くおられると考え、協会では紙媒体の機関紙発行を続けていきます。タイムリーではない情報もありますが、簡単に協会活動を一覧いただける機関紙にも、引き続きご期待ください。

さて、今回は2月に開催されました協会の年次総会を報告いたします。今回の総会では、障害者カヌーの普及をめざし、将来にむけしっかりとした活動を進めていくために、協会の団体としての形を変え、協会の決定いたしました。年次総会では、応援していただけの協会会員のみなさんの賛同を得て、日本障害者カヌー協会を解散し、一般社団法人日本障害者カヌー協会を設立することを決定し、現在は一般社団法人としての登記をすませ、日本パラリンピック委員会とともに活動をすすめて

いきます。以下に、年次総会での様子と今後の取り組みについて報告いたします。

○日本障害者カヌー協会最後の、そしてはじまりの総会

総会の冒頭、吉田義朗会長より「今日が第一歩になる。これから新しい日本障害者カヌー協会として活動していきたい。協会としての大きな夢は、カヌーがどのプールにいても、ビート板のように置かれていることが普通の景色になるような環境を作っていきたい。そのために、みなさんの力をお借りして、既存の団体にはなかったものを作っていきたい。」

次に年次総会の中で話された内容を掲載します。

○2016年度、これまでの活動の振り返り

全国で開催される障害者カヌー体験会(パラマウントチャレンジカヌー・以下、パラチャ)とスプリント等のカヌー競技、各種媒体を使った広報活動や、みなさんの個々の活動のすべてが協会の活動です。

パラチャが始まってから26年が過ぎました。奈良で26年、京都で

25年、大阪や愛知でも24年、いろんな形で続いています。2016年は、茨城の霞ヶ浦、滋賀の琵琶湖、兵庫の円山(まるやま)川、埼玉、静岡、長野、山梨などでの川や海、そしてプールなど、それぞれの場所で、楽しみたいスタイルでパラチャが開催されています。

プールでのカヌー講習会では、高槻ユニバーサルクラブ(大阪)、堺ファイブプラザ(大阪)、寝屋川支援学校(大阪)、奈良県富雄北小学校、埼玉県でのB&Gスタッフ向けプール講習会などを支援してきました。現在は、B&G財団のみなさんとかかわりも強くなっています。講演会では、滋賀県米原小学校、大阪国際大学、パラカヌー選手発掘イベント(九州、東京、静岡)で、実際のカヌーを持ち込んで実施いたしました。パラカヌー競技では、国内、国外の各種の大会を支援し、成績はリオパラリンピックで入賞、アジアカヌー大会では1位2位を獲得しています。

○2017年度の活動にむけて

現在、協会の事務所は東京の国会議事堂の近くにある日本財団ビルの中、パラリンピックサポートセンター内にあります。事務所を東京に移転した理由は、2020年東京パラリンピックにむけた様々な活動を追い風にして、協会を強くしたいという思いがあった

からです。吉田会長も東京に移住し、大きく活動の場を広げています。

現在、カヌーというスポーツは競技と遊びが分けられてしまい、スポーツとしての広がりがない状態が続いています。東京パラリンピックにむけた活動の中で、カヌー競技とカヌーでの遊びを一体のものとして広げていきたいと考えています。

その中心となる拠点として、石川県小松市にあるNTC(ナショナルトレーニングセンター)木場潟(きばがた)カヌー競技場があります。オリンピック・パラリンピック強化指定選手が使えるようになり、日本にとって大きな拠点となる予定ですので、協会としても精一杯の働きかけを行っていきます。

具体的なカヌー体験や選手発掘のために必要な、スプリント艇も購入しました。まずは、カヌーの楽しさや難しさを知ってもらうために、興味のある人にどんどん乗ってもらいます。遊びのカヌーに競技カヌーが増えたことで、カヌーに興味をもった方の選択の幅が広がりました。

○既存の団体にはなかったものをつくる

日本のパラリンピックスポーツには22の団体があります。そのうち障害者が中心になって、競技の運営にかかわっている団体は少数

です。カヌーは大きく違って、活動の中心に障害者がいます。これには理由があります。障害者カヌーが、普及から本格的な競技スポーツに広がりをつくるまでに20数年が経過しています。身体障害だけではなく、様々な障害を持つ方を受け入れるなど、この期間の経験やさまざまなノウハウ、そしてもっとも大切な人とのつながりがあるからこそ、自信を持って活動ができています。協会の活動は、スタッフも参加者もない、上も下もない姿を理想としています。理想がお題目であってはなりません。理想をめざして前に進んでいく協会であり続けようと考えています。

○新しい団体として

日本では、2020年東京オリンピック、パラリンピックに向けて様々な活動がありますが、ともしればメダルの数や、メダルをめざす有力選手の話題に終始しがちです。本来は、メダルの前に、選手の発掘育成があり、その前に、スポーツの普及があり、さらにその前に、意識の壁を取り払い、誰もがスポーツを楽しめる社会と環境が必要です。当たり前のことだけれども、なぜかあきらめてしまっていることが、実現可能な理想だと考えられる心の改革が必要です。

このような社会背景の中、理想をめざす活動を力強く進めていく

ため、協会を新しい団体にしたいと考えています。現在は、任意団体である日本障害者カヌー協会を解散し、2017年4月から一般社団法人日本障害者カヌー協会を設立し、現在の協会から事業譲渡する事について承認いただきたく考えています。(全員賛同、拍手で承認)

○これからも応援を

2017年度以降も、パラチャ支援、機関紙の発行を継続する等、これまでの活動をおこないつつ、さらに内容を深めていきます。競技については、パラカヌー選手の発掘と強化、またスタッフも充実させていきます。いま集まってきたほしいのは、カヌーコーチ、メカニック、ドクター、トレーナー、栄養士など、さまざまな形で応援してもらえる方をぜひ紹介してください。

○新しい拠点NTC木場潟カヌー競技場

木場潟カヌー競技場は、わたしたちの新しい拠点です。年次総会では、協会会員で、日本カヌー連盟NTC強化委員長(現)、パラカヌー強化委員会副委員長(現)の本田泉さんより、NTC木場潟カヌー競技場での活動を紹介いただきました。

カヌーのナショナルチームが年に150〜200日も練習するという木場潟カヌー競技場では、競技の

指導だけでなく、各種記録の測定、動作撮影の解析なども実施されています。パドリングマシンには、漕ぎ方をモニターできる装置も設置されています。そのほか、ウエイトトレーニング用施設の充実や、地元サポートスタッフを増やすことで、2020年東京オリンピックパラリンピックのカヌー競技のキャンプ地として利用したいと考えています。パラカヌー競技用の艇を購入する計画もあり、今後拠点としてますます充実していきます。

○今後にもむけて

年次総会を終え、日本障害者カヌー協会は、一般社団法人として文字通り社会の真ん中に漕ぎだしました。わたしたちの理想は、他の競技に比べると、少しだけ違ったところをめざしているかもしれませんが、この「違い」を「当たり前」にしていくことが、新しい活動を進める目的です。

この活動を大きくしていくには、みなさんの協力が不可欠です。ぜひ協会会員になって応援してください。各地の活動に参加してください。みなさんの人脈の中から、新しい選手、新しい応援スタッフを紹介してください。カヌーのなにも言えない楽しさを、多くの人に伝えていき、社会の当たり前を少しでも変えていきましょう。

2017年度 一般社団法人日本障害者カヌー協会 事業計画

一般社団法人日本障害者カヌー協会は、日本における障害者のカヌーに関する統一組織として、スポーツとしてのカヌーの普及を目的とし、これを通して障害者の生活圏、行動圏を拡大していくことに寄与することを目的として、その社会的役割を果たすため定款に基づく事業を行うものとする。

日常の中での楽しみの一つであるスポーツとしてのカヌーの普及を基盤とし、障害者健常者関係なく、誰でもカヌーを楽しめるユニバーサルな環境づくりを推進する活動を行います。

パラリンピックサポートセンターの助成を受け、普及事業を拡大してパラマウントチャレンジカヌーの企画だけでなく、広告マーケティング媒体の製作、メディアでの公開や露出を増やし国内の障害者カヌーの認知を高める活動を行います。

パラマウントチャレンジカヌーについては、関西圏から関東圏への進出をめぐり、震ヶ浦・小松市・静岡で新しく計画し、定着していくものとなるよう地域の協力を得ながら、地域性のあるパラチャ環境を作り出します。

SNSやHP等の情報発信を積極的に行い、幅広い事業活動を公開することで新規会員の獲得や、障害者の社会参加につながる企画を広げていきます。

特に、関東以北の情報を集め、新しい川や湖、海などパラマウントチャレンジカヌーが出来る場所の環境調査を行い、協力団体や施設を増やして地域と共に環境設備やユニバーサル環境について考えていきます。

以前から行ってきた講習会や講演会や体験会に関しては、関西圏・関東圏と主要会員の中で、役割分担し一斉に全国に拡大できる組織作りを目指します。

2020年東京大会開催に向けた競

技力強化の取り組みについては、公益財団法人日本カヌー連盟、公益財団法人日本パラリンピック委員会（JPC）及び、日本スポーツ振興センターをはじめ、東京オリンピックパラリンピック準備局、東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、スポーツ庁との緊密な連携のもとに強化活動、会場設備の整備、ユニバーサル環境の促進に努める事とします。

基礎基盤の強化という点で競技人口の増加を目標とし、強化指定選手の拡大、強化指定スタッフの拡大を目指す。また、競技力強化に必要な施設関係とも協力し、それぞれの専門分野の能力を十分に発揮できる体制を作り、一丸となつて競技力の向上に努めます。

計画として、2017年度、World Cup、世界選手権にトップレベルの選手の派遣、入賞を目指します。東京2020年の2種目の正式採用を目指して、日本カヌー連盟と連携したICWへの働きを行います。

強化指定選手だけでなく全体の練習環境の整備を整えるため、JIC木場潟と連携した選手のサポートを行い、JICでの合同合宿、健常チームからのコーチ依頼、PCの医科学サポートの最大限の活用、指導者やアスリート研修会の参加に対して積極的参加を呼びかけ、競技力向上に努めます。

またアジア大会では、2020年東京大会に向けた海外での大会の経験として、強化選手、強化スタッフを積極的に派遣します。そこには、競技力の強化だけでなく、定款にある行動圏、生活圏の拡大という点での選手の自立を目的としています。

国内大会に関して、パラレース特有の役員を協会内で養成し、各地の大会に派遣できる体制になるよう支援スタッフやパラ役員候補を募ると同時に、パラ役員としての専門的な教育を行い、協会企画の大会が行えるような新たな役員の確保に取り組みみたいと思えます。

2016年度 事業会計収支計算書

日本障害者カヌー協会

2016年4月1日から2017年3月31日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1 入会金・会費収入	528,000	428,000	100,000	
2 パラサポ助成金収入	7,215,000	7,215,000	0	
3 JPC助成金収入	7,218,000	7,218,000	0	
4 参加費収入	2,805,000	8,852,532	-4,238,532	
5 寄付金収入	28,000	28,352	-352	
6 JPC助成金2015年度繰入金収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	14,989,000	23,741,884	-8,752,884	
会費前期繰越収支差額	298,584	298,584		
JPC前期繰越収支差額	201,797	201,797		
収入合計(B)	15,190,797	24,242,265	-9,051,468	
II 支出の部				
1 事業経費	8,876,000	19,695,535	-10,819,535	
競技体制整備強化事業	1,667,000	6,586,837		
競技強化事業	5,884,000	10,815,636		
普及活動事業費	360,000	1,573,939		
広報関連費(広報)	195,000	292,878		
マーケティング製作費	770,000	426,245		
人材育成事業	0	0		
2 管理費	5,415,000	5,043,380	371,620	
人事関係費	4,150,000	4,150,780		
事務所関係費	800,000	545,628		
その他の管理費	465,000	346,972		
3 予備費	0	0	0	
当期支出合計(C)	14,291,000	24,738,915	-10,447,915	
当期収支差額(A)-(C)	698,000	-997,031	1,695,031	
次期繰越収支差額(B)-(C)	899,797	-496,659	1,396,447	

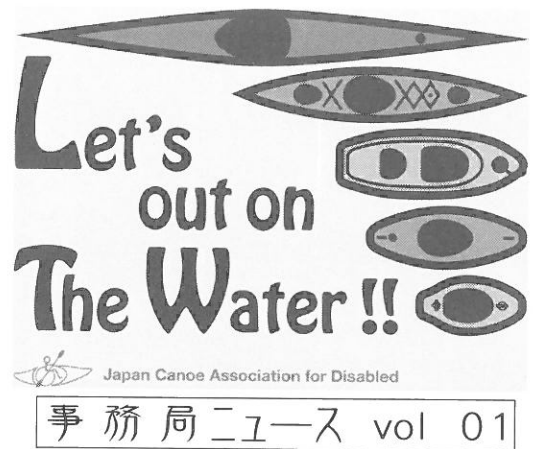
2017年度 事業会計予算計算書

一般社団法人 日本障害者カヌー協会

2017年4月3日から2018年3月31日まで

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 収入の部				
1 入会金・会費収入	400,000	0	400,000	
2 パラサポ助成金収入	11,840,000	0	11,840,000	
3 JPC助成金収入	16,137,000	0	16,137,000	22,381,000の概算払い
4 寄付金収入	240,000	0	240,000	
5 JPC助成金2016年度繰入金収入	786,000	0	786,000	
当期収入合計(A)	29,403,000	0	29,403,000	
前期繰越収支差額	-428,659			
収入合計(B)	28,974,341	0	28,974,341	
II 支出の部				
1 事業経費	27,281,000	0	27,281,000	
競技体制整備強化事業	7,213,000			
競技強化事業	15,168,000			
普及活動事業費	2,300,000			
広報関連費(広報)	300,000			
マーケティング製作費	1,500,000			
人材育成事業	800,000			
2 管理費	10,940,000	0	10,940,000	
人事関係費	8,200,000			
事務所関係費	1,200,000			
その他の管理費	1,540,000			
3 予備費	0	0	0	
当期支出合計(C)	38,221,000	0	38,221,000	
当期収支差額(A)-(C)	-8,318,000	0	-8,318,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	-9,314,659	0	-9,314,659	



日本障害者カヌー協会は、2020年東京オリンピックピックパラリンピックに向けて、一般社団法人になり事務局も東京に移し、吉田会長と、事務局員の上岡央子さん活動しております。今号より定期的に東京の事務局での活動の様子をお伝えして行きます。

東京では2020東京オリンピックピックパラリンピックに向けて、目まぐるしく動いています。日本障害者カヌー協会の事務局も2020年に向けて東京に移りました。事務局はパラリンピックサポートセンター内にあるので、他の競技団体との交流や情報を受けながら、設立当初から変わりない障害者カヌーの普及と発展の為に活動を続けています。しかし、事務局を東京へ移し一



吉田会長(左)と、上岡さん(右)

般社団法人に変わるその目的という大切な部分を会員全員にお伝えすることが充分に出来ていなかったことを反省しております。

まず、1995年の障害者カヌー協会設立当初の想いを再度、会員のみなどで共有したいと言う想いでTシャツを作成しました。

このTシャツのデザインは、一般社団法人日本障害者カヌー協会のロゴデザインと同じで『海のカヌーSeal』『2人乗りのシットオンタイプ Siton』『川のカヌーRiver』『自由なカヌー Free style』という4つのカヌーを並べています。そして一番上には、パラリンピック正式種目の競技カヌーであるパラカヌーを並べて描いてあります。

どの形のカヌーも『Let's out on the Water!!』水の上に出れば一緒に、障害があってもなくても、カヌーに乗って水の上に出たらそこには段差も壁もなく、誰もが思う方向に自由に進め、一緒に目線に立って楽しめるスポーツとし

て、広く伝えていきたい、そしてたくさん仲間と一緒に水の上に浮かぶ自由な感覚を楽しみたいという思いを一つのデザインに詰め込みました。

Tシャツはホームページや、Facebookで広く宣伝させて頂き、好評を頂いております。

また、同じデザインでステッカーのバナーや、横断幕も作成し『障害者が気軽にカヌーが出来る場所』としてパラチャ開催地や、協力いただいている施設に配布して掲げて頂くようお願いしております。

今期の活動では、京都パラ開催地の和知(京都府)、大阪パラ開催地泉南郡岬町青少年海洋センター(大阪)、霞ヶ浦ラクスマリナー(千葉県)、府中湖カヌー競技場(香川県)、木場潟カヌー競技場(石川県)、兵庫県立円山公苑(兵庫県)がご協力して頂きました。そして奈良パラ開催地では、奈良パラの実行委員と共同で全国大会を開催致しました。参加者から頂いた寄付と、協会会費からパラ艇の運搬費用、キャンプ場のトレーラーハウス代を出させて頂きました。

まだまだこれから各地に掲げて頂けるよう活動を広げていきたいと思っております。誰でもカヌーを楽しめる環境があればぜひ教えて下さい。障害者カヌーの普及活動と同じ

く、東京の事務局では競技の普及と強化の活動も行っています。2020年東京オリンピックピックパラリンピックに向けてはたくさんの方の支援を受けることが出来ませんが、それには計画性のある申請書と明瞭な会計報告が必須です。それらの活動の中心機関として、毎日奮闘しているのが東京の事務局です。これからもホームページや広報誌、Facebookなどで活動情報を発信して、たくさんの方に活動にもご参加頂きたいと思っています。最後に、今後ともさらなる普及と発展の為に、皆様のお力添えをお願い致します。

一番人気の
Tシャツは、半袖
長袖あります!

車に貼る
ステッカーも
人気です!

※Tシャツ寄付も随時受け付けています。
半袖：コットン(白) 150/S/M/L/XL
会員¥2000/非会員¥2500
長袖：サーマル素材(白・黒) S/M/L/XL
会員¥3000/非会員¥3500
《振込先》
三井住友銀行 霞ヶ関支店
普通 6849143
一般社団法人日本障害者カヌー協会



大会報告

パラカヌープリント世界選手権

2017年8月23日〜27日、チエコのラシセでパラカヌープリント世界選手権が開催されました。36か国の参加があり、日本からは瀬立モニカ選手、中嶋明子選手、諏訪正晃選手、濱田美穂選手が参加致しました。結果は女子部門、瀬立モニカ選手がス「」決勝8位、<「」決勝3位。中嶋明子選手<「」決勝2位、男子部門では、諏訪正晃<「」2準決勝7位。濱田美穂選手<「」3予選9位の成績でした。

今回、中嶋明子選手から、現地レポート頂きました。

上岡事務局長と少し遅れてチエコ入りした初日。まさかのドライバーが迷子になり、空港からホテルの30分程の道のりが5時間越えで始まった遠征。同じホテルの本田監督をかなり待たせてしまいました。

チエコでは東京組とは別ホテルかつ会場移動が車いす非対応だったので、バスへの乗車は中々のアスレチック状態。ところが、毎日スペインチームやカナダチームの選手やスタッフが乗り降りを手伝ってくれ、とても助かりました。更にはスペインから役員のご両親

について来ていた、2人の小さなお友達が片道1時間のスペイン語講座を開いて遊んでくれた(笑)ので、最終日の寝言ではスペイン語で数字を叫んでいました(笑)

会場では各国の友人達と近況やトレーニングに関して議論を重ね(たまに愚痴ったり)、健常者のレースを一緒に応援したり。

この5年間、初レースで初沈したり、男子選手に間違えられたり、人数不足の他のクラスのレースに駆り出されたり、艇を運んでもらったり、お互い通訳して助け合ったり、本当に色々ありました。

その中で、沢山の海外選手やスタッフと一緒にパラカヌーを盛り上げていこうよ!と頑張ってきたが、改めて本当の仲間なんだなあ...と実感出来た遠征でした。

実は、帰国後も某選手と色々企んでいます(笑)

今回は上岡さんと同室で、一緒にス「」で量り売り食材を買うのにチエコ語のタッチパネルと格闘したのですが、ヘンテコな形の桃に心を奪われ、閉店間際まで店内にいて、オジさんに怒られたり、中々楽しかったですよ。

あ、勿論、ラチツェの会場は、風向きも良く、気持ちのよいコースでした。海外の人工コースは、地形、風向きがよく考えられているのか、ほぼ追い風か向い風の二方向です。横風が殆どないので、とても漕ぎやすいですよ。

平成29年度日本パラカヌー選手権大会 兼2018パラカヌー海外派遣選手一次選考会

2017年9月9日〜11日、石川県の木場潟競技場で平成29年度パラカヌー選手権大会兼2018パラカヌー海外派遣選手一次選考会が開催されました。新人選手が多く参加してくれました。スタッフが少ない中でしたが5分刻みのレースが参加者全員の協力の下、円滑に開催できました。リザルト記載しております。今後、東京オリンピックパラリンピックに向けて、もっとたくさん選手の参加出来る大会になって行けるように頑張っていきたいと思えます。大会に関わられた皆様、ありがとうございました。

パラカヌー男子KL1-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	高木 裕太	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:24.480	01:19.479
2	小川 剛矢	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:21.505	レーンアウト
3	小林 宣裕	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:56.834	02:26.288

パラカヌー男子KL2-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	辰己 博実	北海道パラカヌー協会	00:51.618	00:52.949
2	山田 隼平	パナソニック吉備株式会社	01:04.332	01:08.181
3	諏訪 正晃	江東区カヌー協会	01:06.861	01:10.188
4	加藤 隆典	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:12.241	01:14.828
5	崎山 翼	高知県カヌー協会	01:19.706	01:28.539

パラカヌー男子KL3-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	小山 真	埼玉県カヌー協会	00:54.595	01:00.105
2	鈴木 隆太	(株)OLM digital	01:45.312	01:47.594
3	濱田 美穂	日本放送協会 横浜放送局	01:45.526	01:46.468

パラカヌー男子VL2-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	諏訪 正晃	江東区カヌー協会	01:04.774	01:08.995
2	辰己 博実	北海道パラカヌー協会	01:09.743	01:11.007
3	加藤 隆典	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:45.239	棄権

パラカヌー男子VL3-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	濱田 美穂	日本放送協会 横浜放送局	01:13.312	01:21.835
2	小山 真	埼玉県カヌー協会	01:33.887	01:36.133
3	前田 和哉	safilva	01:44.206	01:45.768

パラカヌー女子WKL1-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	瀬立 モニカ	江東区カヌー協会	01:03.3	01:08.1
2	中嶋 明子	マルホ株式会社	01:16.6	01:23.6

パラカヌー女子KL2-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	増田 汐里	江東区カヌー協会	01:25.425	01:35.000

パラカヌー女子WKL3-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	加治 良美	岐阜県カヌー協会ハカ部	01:02.6	01:06.9

パラカヌー女子WV1-1 200m				
順位	氏名	所属	1本目タイム	2本目タイム
1	瀬立 モニカ	江東区カヌー協会	01:41.6	01:53.8
2	中嶋 明子	マルホ株式会社	01:45.4	02:08.0



日本選手権の表彰式後の集合写真



世界選手権の中嶋選手(左) 上岡さん(右)

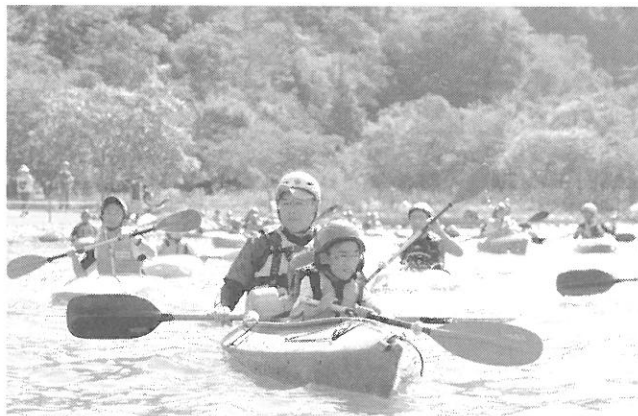
「一期一笑」のチャレまる!



チャレまる参加者 森 晴大・雅子親子

2016年10月2日兵庫県立川公苑でパラマウントチャレンジャーin円山川(以後チャレまる)が開催されました。今年も、親子で初参加の森晴大君とお母さんの雅子さんからリポート頂きました。

初めまして、昨年初めてチャレまるに参加させて頂きました。森晴大と母の雅子です。息子の晴大は、巨大さい帯ヘルニアと右手橈骨欠損による身体障害が有りますが、今では信じられないですが、3歳までは、酸素吸入をする生活でした。奇跡的に酸素も外れ、歩ける様になり、少しずつ出来る事を増やして行き、昨年中学生になり、本当に毎日忙し過ぎる日々で、何か楽しい事をさせてやりたいなと思っている所に、チャレまる実行委員に声を掛けて頂き参加させて頂きました。



晴大くんと、ボランティアの玉井さんのコンビは抜群です



漕げば、漕ぐほど、カヌーが上手くなるお母さん

チャレまるの午前中は公苑内の池でのカヌー体験会。最初は、初めての参加で不安でしたが、皆さんに温かく声をかけて貰い、私自身もほぼ初心者ですので、晴大はボランティアの方にお任せして一人艇に乗りました。晴大に付いて頂くボランティアの方は車いすの方ですが、ものすごくパワフルでお孫さんと一緒に晴大も乗せて漕いで下さいました。

午後からは湾の方へ出るツーリング。晴大はツーリングは初めてで出発すると、素晴らしい景色と開放感で中学校での緊張感を忘れ最高の笑顔でした。

私もなんとか皆さんについて行こうと必死で漕ぎ「お母さん、上手くなって来てるじゃないですか」と言ってる嬉しく、その気

になり、今年も頑張ろうと思っております。

今回チャレまるを通して、本当にたくさんの勇氣と元気を貰いました。障害を持つている実行委員の方とお話しの中で、「障害者カヌーで初めて、障害者として扱われなかった」と言っておられるのを聞いて、私自身も本当そうだと実感させて頂きました。参加者が障害の有無に関係なく過ごされているのが、素敵だなどと思いき、世界全体がこういう風になるといいなと思いました。

次回もたくさんの出逢いと笑顔の「一期一笑」の気持ちで、親子共々チャレまるに参加させて頂きます!



2017年6月26日、名古屋市障害者スポーツセンターの屋内プールにおいてパラマウントチャレンジカップ(以下PCC)が開催されました。今回は10年ぶりのパラカヌー参加、大阪在住の吉田志津加さんからリポート頂きました。

10年振りにパラカヌーに参加しました。大阪在住の吉田志津加です。PCC参加は初めてで、しかも名古屋に来たのも人生初でした。1996年に初めてパラマウント・チャレンジ・カヌーに参加したのですが、ここ10年ほどは、仕事や家庭の都合で遠ざかっていました。今年の総会に出て、またパラカヌーに行けるといいなと思っていた所に、友人から誘ってもらい参加しました。

プールの周りにカヌーが並び、フィッティング材が置かれ、スタートフィッティングが始まると、ワクワクする気持ちが高まりました。午前中は、初めてカヌーに乗る人の側についてプールの中を歩きながら、何度も往復しました。「ゆっくり、ゆっくり、みぎ、ひだり」と一緒に言いながら、彼はパドルを漕いでいましたが、操作に慣れてカヌーが上手く進み出すとドンドン早くなり、私は追いつかなくなると声も届かなくなりました。ずっと付かず定点にいればいいかなと思っていたら、彼が後ろを振り返って私を見てく



れたので、私はカヌーにつかまり引っ張ってもらおう形で進みました。プールの端に来ると「パドル立てて」「右だけ漕いで」「まっすぐなった、みぎ、ひだり」と言ってパドル操作をしてカヌーを動かしている彼はとても楽しそうに、私も楽しくてずっと笑っていました。

お昼からはタイムレースがあり、みなさんは気合いも入っていました。タイムを計る方、実況を担当する方、音楽を流してレースを盛り上げて下さる方、声援や拍手を送る方々、よりいいフィッティングを目指して試行錯誤する方々、参加者もスタッフもみんなでその場を楽しんでいました。個々の楽しみたい気持ちやがんばりたい気持ち、大切にされていたPCCで、私は元気をもらいました。帰りは、名古屋駅前の大きな建物を見て大阪とも違う雰囲気を感じ、きしめんを食べて帰りました。久しぶりに身体が疲れましたが、心地よい感覚を味わいました。PCC

10年振りのパラカヌーに参加しました



ボランティア / 吉田 志津加



Cにまた参加したいと思いましたが、直前の参加希望に快く応じて下さった実行委員の皆さん、ありがとうございました。

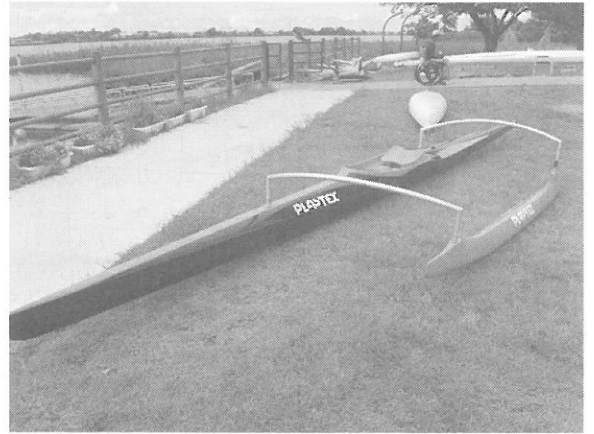
一九九二年九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八日) 発行 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二二二 東興ビル4F 定価一〇〇円

2020東京オリンピックパラリンピックに Var(種目)が正式に採用される事が決定しました。

2020年東京オリンピックパラリンピックにVar(種目)が正式に採用される事が決定しました。男子L2、L3、女子L2とカヤックよりもクラスは少なくなりましたが、世界でもパラカヌーの拡がりを示す喜ばしい出来事です。と言いましてもVar(種目)を知らない方がほとんどだと思います。競技としてのカヌーは、昨年のパラリンピックリオ大会で初めて種目に採用されました。200mのタイムトライアル、決められたコースをまっすぐ速さを競う競技です。日本から参加した瀬立モニカ選手が8位入賞という活躍をご存知の方も多と思います。

スプリントのカヌーは如何に早く進めるかを追求した艇です。このスプリント艇の片脇にアウトリガー浮子をつけた艇で競う競技の事をVar(種目)のと言います。

2020年に向けて、どんどん挑戦する選手が出てきています。Var(種目)でも世界に通用する選手が生まれる様に、パラカヌー競技環境もしっかり整えていかねばと強く思います。

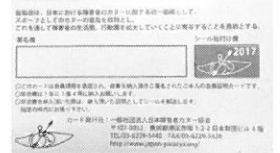
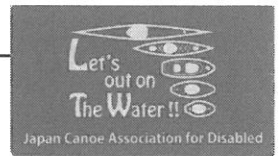


(一社) 日本障害者カヌー協会の会員カードができました

法人化を果たし、皆さまからの要望も少しづつではありますが応えられる様になってきました。そのひとつが会員カードです。以前はパウチで作った会員カードがありましたが、最近では配布することが出来ていませんでした。

今回、法人化にあたり会員名簿の整理、改定にあたり、会員カードを復活させることになりました。すでに会員の皆様のお手元には届いていると思いますが、黒を基本としたカッコいいPETカードに仕上がっております。

これまでの支援に感謝すると共に、今後も継続した支援と援助をお願い致します。ぜひ会員になって、会員カードをゲットしてください!



(一社) 日本障害者カヌー協会 から会員募集のお知らせ

(一社) 日本障害者カヌー協会では、一人でも多くの方に、協会に協力いただきたいと願っています。会員になる資格は特にありません。障害の有無は関係ありません。協会主旨に賛同いただければどなたでもOK。入会にあたっては、協会事務局までご連絡ください。折り返し申込書を送付させていただきますので、年会費2千円をお振込みください。

【事務局連絡先】

〒107-0052

東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル4階

(一社) 日本障害者カヌー協会

電話 03-6229-5440

【編集人】 〒630-0201

奈良県生駒市小明町493-17 吉田義朗 方

【会費振込先】 *郵便振替です

加入者名 一般社団法人日本障害者カヌー協会

口座番号 01020-7-12908

*他金融機関からの振込口座番号

一〇九(イチゼロキユウ)店(109)当座0012908

ホームページ: <http://www.japan-paracha.org/>

協会へのご連絡、お問合せは、ホームページの「協会への問合せ」からお願いします。

編集後記

話せばわかる、という言葉があるように、乗ればわかる。漕げばわかるカヌーです。漕いでる姿はインスタ映えますよ!
(さいと一)

プールでカヌーに乗ってもらおうカヌー体験会をあちこちで行い、カヌーを身近なスポーツとして触れ合ってもらおう活動を進めています。応援お願いしますう〜。
(とほほのみやざき)

20年ぶりに実家に戻り、100歳の祖母と、0歳の息子の4世代生活が始まりました。ペットも合わせれば9人家族、賑やかな毎日です。早く息子とカヌーしたいな〜。
(マコト)

